

学科名	生物環境化学科、電気通信工学科、建築・デザイン学科、情報学科、経営ビジネス学科						
科目名	教育相談						
科目区分	教職科目	単位数	2単位	開講時期	3年次前期		
必修・選択の別	選択科目(教職必修科目)						
担当者	小林 美緒						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場での諸問題の現状(文部科学省による定義、具体的発生数・認知数等)について、実態を説明できる。 ・上述の諸問題について、典型的・基本的な対応方法を理解し、具体的に実践することができる。 ・教育相談に関する用語の意味と基礎的な方法を説明できる。 ・カウンセリングの基本的理念や技法を説明できる。 ・子ども理解に関わる主要な心理検査の種類とその特徴について説明できる。 						
日程と内容	<p>4/10 導入講義(授業の進め方と概要の説明、成績評価法の提示)および「教育相談」の定義の説明</p> <p>4/17 教師に望まれるカウンセリング・マインド～カウンセリング・マインドとは何か～</p> <p>4/24 教師に望まれるカウンセリング・マインド～具体的な技法、トレーニング方法～</p> <p>5/1 ～パーソナリティの諸理論、発達①～</p> <p>5/8 ～パーソナリティの諸理論、発達②～</p> <p>5/15 児童・生徒の理解～知能検査～</p> <p>5/22 児童・生徒の理解～人格検査①～</p> <p>5/29 児童・生徒の理解～人格検査②～</p> <p>6/5 児童・生徒の理解～カウンセリングの基礎技法～諸問題への対応</p> <p>6/12 諸問題への対応～不登校・いじめに対する理解と対応～</p> <p>6/19 諸問題への対応～非行に対する理解と対応～</p> <p>6/26 諸問題への対応～性的問題に対する理解と対応～</p> <p>7/3 障がい児、特別な援助が必要な児童・生徒への理解と対応①</p> <p>7/10 障がい児、特別な援助が必要な児童・生徒への理解と対応②</p> <p>7/24 障がい児、特別な援助が必要な児童・生徒への理解と対応③</p> <p>7/31 最終試験</p>						
成績評価基準	定期試験	80%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	20%	プレゼンテーション				
	課題演習		計	100%			
授業到達目標の達成度	最新の教区関係の直近のデータや日常生活に関係の深い具体的な事例などを用意するよう心掛けた。また、実践問題や論述のワークシートを実施し、知識がより定着する機会を設けた。その結果、アンケートの自由記述において、「これからの社会生活で役に立ちそう」「今後の生活に活かせると思う」といった記述が複数見られ、実践的知識のある程度の獲得として、授業目標が達成できたと言える。						
反省点	ワークシートの提出遅れや遅刻、授業中の抜け出しなど、教員を志すクラスにしては、受講態度自体に問題のある学生も残念ながら見られた。教職科目として、授業内容そのものだけでなく、教員らしい姿勢や態度の形成についても、さらに厳しい指導が必要であると感じる。						
来年度の計画	今年度は前年度と同じく、初学者に配慮したペースで進めた。来年度も、データや情報も最新のものに更新するよう心掛け、教育改革が進められている現在、実際の教育現場の問題や教員に求められる資質などをより実感できるような講義を心掛けていきたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	全体的に3以上の評定となっていたため、授業構成や雰囲気自体に、大きな問題は見られなかったと捉えている。不満がある評価も1名から見られたので、一層の改善を図りたい。また、予習・復習に関する項目で全体的に時間が少なく、自学自習をより推進していく必要がある 自由記述による評価では、「分かりやすかった」「明るい感じの授業で良かった」といった内容の評価が得られたため、この点については維持できるように努めたい。こちらは気づけなかったが「教室が寒かった、風邪をひいた」という意見があったため、温度などにも留意して、より学生が学修に集中できる環境となるよう気をつけたい。						
履修登録者数	35名	定期試験 受験者数	35名	合格者数	31名	合格率	89%